英国王立ウィズリーガーデン内ロックガーデン改修工事築造報告

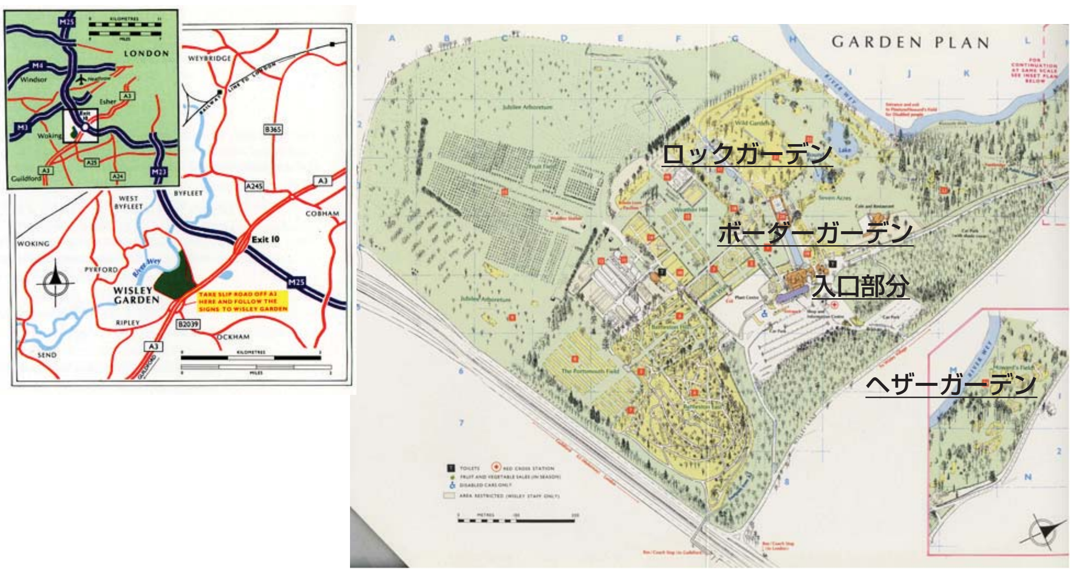
福　原　成　雄

はじめに

英国王立園芸協会は、2004年に設立200周年を迎え、本年様々な記念事業が行われている。ウィズリーガーデンは、ロンドンから南西35km、ヒスロー空港から車で約30分のサリー州に位置している。ウィズリーガーデンのオークウッドの土地は、1878年に実業家、科学者、発明家、園芸家であったジョージ・ファーガソン・ウィルソン（George Ferguson Wilson）によって買収された。難しい植物を展示する実験的な庭園「かしわの森実験園」が作られ、ユリ、リンドウ、日本のアイリス、サクラソウ、ウオタープランツで注目を集めるようになった。1903年にウイルソンが亡くなり、トーマス・ハンベリー（Thomas Hanbury）が買い取り、彼によって、1804年に植物学者のジョセフ・バンクス、キューガーデンの庭師のウィリアムスら７人が集まりロンドンに設立された王立園芸協会に寄贈された。

1911年にはロックガーデンが造成され、温室の建設、松樹園、バラのボーダー園が順次整備拡張され、現在は240エーカー（約97ha）の世界最大級の庭園である。園芸の普及と発展の為、品種の試作、園芸技術、庭園デザインなど、園芸家に役立つ庭園造りを目指している。シャクナゲ、ツツジの群生が有名で、夏の終わりにはヘザー・ガーデン（ヒース）が、ロング・ボーダーやローズ・ガーデンは春から夏に、ロック・ガーデンは特に春の花が美しい。2004年２月から200周年を記念してロックガーデンの改修工事が行なわれた。その計画、設計内容、石組、植栽施工管理について報告いたします。

（図－１　位置図及び全体図参照）



図ー１　位置図及び全体図

1．英国王立ウィズリーガーデンの概要

1）管理運営

管理職員は、約120人、ボランティア職員約260人、その他関係職員を含め総職員800人、世界中から園芸を愛する人が集まり年間の利用者は約80万人である。

世界中の植物種を調査、収集をし、品種改良、園芸の普及と発展、品種、園芸の技術、庭園デザインの研究を行っている。王立キューガーデンと同様に植物専門家、園芸家、庭園デザイナーを志す若者が世界中から研究生として訪れている。日本支部RHSJも毎年学生を日本で選抜して送り出している。

エリザベス女王が総裁を務めている。

2）庭園施設

（1）入口部分

駐車場から入って右手に事務所と研究所、図書館が入ったウィズリーガーデンのシンボル的建物ラボラトリー。その全面にはランドスケープアーキテクトのジェフリー・ジェリコが設計した芝生に縁取られた整形式の池と多年草と半広葉樹木が植栽されたミックスボダーが対岸のパビリオンに続いている。パビリオンの後ろにはレンガで囲われ四季の移り変わりを花で表したフォーマルガーデンがあり、そこを抜け出ると雰囲気が一変したワイルドガーデンである。（写真－１参照）

（2）ボダーガーデン

ウィズリーガーデンの最大の見せ場と成っているボーダーは、入口から左手の丘陵地パトレストン・ヒルに向って南北に幅5.5m、長さ130mと一直線に続く配植の見事な宿根草のミックスボーダーと、ミックスボーダーに直角する東北斜面に続く夏の終わりから秋にかけて美しいオータムボダーが来園者の目を楽しませている。（写真－２・３参照）

（3）ロックガーデン

英国王立キューガーデンのロックガーデンとウィズリーガーデンのロックガーデンは世界のロックガーデンを代表する規模と美しさで知られている。特にウィズリーのロックガーデンは、テラス式ロックガーデンと呼ばれ、ロックガーデンの手本とされてきた。斜面を生かした土留め石組と、行く筋もの巧みな流れ、様々な形態の滝を作り、園路、階段が絡み合うように結ばれている。植栽には条件の悪い北向きの斜面に日陰を好む植物を集め、石と石との間に見事に植栽されている。（写真－４参照）

写真－１　ウィズリガーデンのシンボルラボラトリー

写真－２　ボーダーガーデン　ミックスボーダー

写真－３　ボーダーガーデン　オータムボーダー

写真－４　ロックガーデン

（4）ヘザーガーデン

ウィズリーガーデンの北に広がるハワーズ・フィールドにエリカ、カルーナ、ダボーシアの園芸品種を集め一年中楽しめるヘザーガーデンが広がっている。

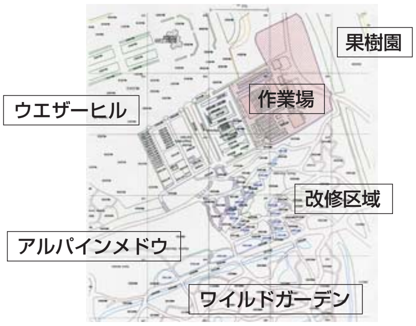
2．ロックガーデン滝改修工事

英国王立ウィズリーガーデン内ロックガーデンは、1911年、エドワード・ホワイトによって設計され、建設担当のジェームズ・プルハムによって選ばれた大小のサセックス砂岩を敷地内に鉄道を施設運搬し石組が行われ、1912年にウイズリーガーデンの中心庭園として完成された。（写真－５参照）

FIG. 73.—WISLEY ROCK GARDEN—THE MOVING OF THE STONE.

写真－５　1911年頃の施工写真

改修工事は、2002年９月にヘッドガーデナーのジムガーデナー氏（Jim Gardiner）から200周年記念事業に相応しい石組と植栽の計画依頼があり、我々は、この依頼に、「日本の風景」をテーマに、石組、植栽の計画案を作成した。英国内委員会で承認され、2003年12月に石材選定を行い、2004年２月から石組工事を開始した。2004年９月に高木植栽、2005年２月から３月に低木、地被等の植栽工事を行い、３月24日英国王立園芸協会会長リチャード・カルー・ポール卿（Sir.Richard Carew-Pole）の出席のもと、開園式が行われた。（図－２・３・４参照　写真－６・７参照）



図－２　ロックガーデン全体平面図

写真－６　2003年の現況全景写真

写真－７　2003年の滝現況写真

図－３　基本計画平面図

図－４　滝全景スケッチ図

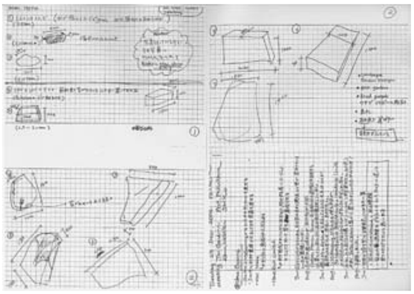
1）石組みについて

現況の地形、平積みを基本とする斜面石組、滝石組を生かして、英国ロックガーデン石組と日本庭園石組との調和を計りながら大滝と流れ、池の作庭を行った。新たな石組は、遠くからも眺め見ることの出来る深山幽谷の迫力ある大滝となるように石の表情を大切にしながら石組を行った。石材の選定に当たって、日本では自然の風雨にさらされた風趣のある石材を選ぶのであるが、ウイズリーの強い要望もあり、将来その趣が出るようにと加工した石材を使用した。滝、流れ、景石石材の加工図面を作成し、石切り場で加工して搬入した石材と既存石材を使用して石組を行った。

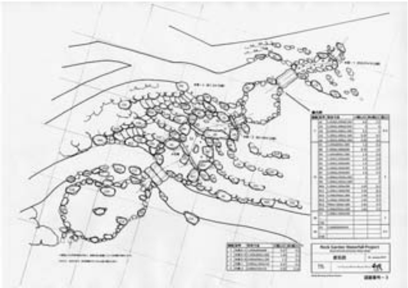
（図－５・６・７参照　写真－８・９・10・11参照）

写真－８　Mac Stone in Macculfield（22.12.03）石材選定

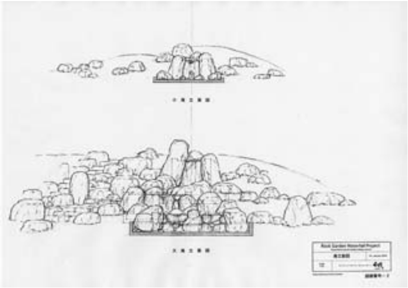
写真－９　Hard Rock Limited in Lancashire（22.12.03）石材選定



図－５　選択石材実測図



図－６　配石図



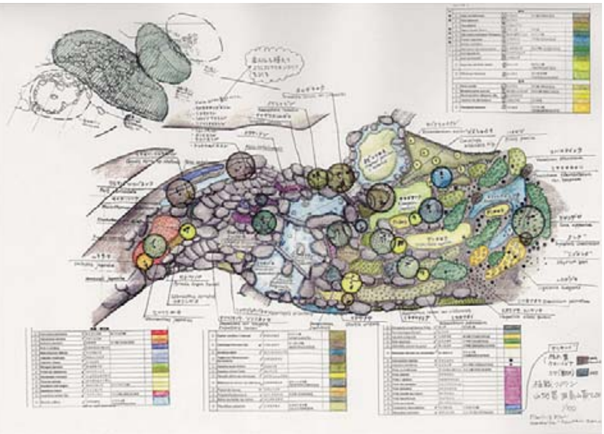
図－７　滝立面図

写真－10　石組工事

写真－11　石組工事スタッフと共に

２）植栽プランについて

日本の山深き荒々しい渓流の景を表現した石組みを骨格として、計画地全体を日本の山の景色を表現する事にした。日本の植生をイメージしながら英国の気候に合う植物の選定を行った。英国の位置する緯度40°～60°ゾーンにあたる日本での場所は、東北・北海道地域である。そこで、この新たなロックガーデンを日本の高山植物分布帯をベースに４つのゾーン（湿地帯ゾーン、山地帯ゾーン、亜高山帯ゾーン、高山帯ゾーン）に分け、なるべく北の地域で育つ植物を中心に選定し植栽計画を行った。第一のゾーンは、下池を中心とした湿地帯ゾーン。ここには、特に湿地帯を好む植物を集めた。第二のゾーンは、大滝を中心とする標高500m～1500mのベルト帯で、落葉樹林が多く見られる山地帯ゾーンとした。ここには、ブナ林を主とし、シャクナゲ、ツツジの低木を中心に、林床で育つ様々な山野草の植生を表現した。さらに、秋には日本の風景を彩るモミジの紅葉が渓流に映る姿を楽しめるよう配植した。第三のゾーンは上池を中心とした標高1500m～2500mベルト帯の針葉樹林が多く見られる亜高山帯ゾーンである。ここには、ハイマツ林を主とした植生を表現した。そして、第四のゾーンは、小滝を中心とした標高2500m～3000mベルト帯の高山帯ゾーンである。ここには、山頂の強風のなか瓦礫帯に咲く高山植物の植生を表現した。小滝から湧き出る源流が上池、大滝、下池へと流れ下り、水の流れが様々な石組を一体にしている。それら石組と地形の高低差を利用し、植生の移り変わりによる山深き‘日本の風景’を表現した。（図－８参照　写真－11参照）



図－８　植栽図

写真－12　植栽工事

３．ロックガーデンの意味について

造園用語辞典（東京農業大学造園学科編）では、「公園・植物園の園内の一隅にあたかも自然の岩山に植物が生育している状態をつくりだすために、人工的に山岳の趣のある岩組をつくり、……高山植物あるいは高山植物に似た風情を有する山野草、……特殊な花壇」と説明されている。庭園・植栽用語辞典（日本庭園協会編）では、「花壇の一種で、自然風に岩石を多数配置し、その間に自然に自生している草花、高山植物を植え、自然景観を模したもの。」と説明されている。造園大辞典（上原敬二編）では、「17世紀イギリスに発祥したもの、始めは花園の一種、……大規模のものは少ない、……生育を助長するために岩石片、岩石塊が用いられるもの、これは生育上の手段であり、岩石を賞するものではない、……岩質、大きさ、形状に制限はない。栽培される植物に重点がおかれる。園芸上の作品。Rockery=石を用いて築山風の形をつくったものの総称。Rocky garden=石の多い庭。Rock work=石を積み上げ、石の集合に過ぎず、庭とはかぎらない。」と説明されて

いる。これら説明によると珍しい高山植物に重点がおかれ、自然景観を取り入れながらも大規模なものが少なく骨格と成る石組にはあまり注意が計られなかったようである。

1）ロックガーデンの歴史について

THE GARDENERS' CHRONICLE.（1841-1985）1986年から書名変更をしてHORTICULTURE WEEK（1986～）ガーデナーズクルニクスよると1880年代から1900年初め頃にロックガーデンのブームとなり、1881年の記事が最初で、1913年から開催されたチェルシーフラワーショーでロックガーデンが多く作られるようになった事が契機となり大規模なロックガーデンが作られるようになったと考えられる。ロックワーク・ロッカリー・ロッキーガーデン・ロックガーデン・ウォターガーデン・アルパインガーデンと呼ばれ方が様々であることもフラワーショーの影響と考えられる。

4．工事日程と工事内容

第１回目石組現場指導2004年２月16日(月)～２月29日(金)
第２回目植栽現場指導2004年９月19日(日)～９月28日(火)
第３回目オープニング2005年３月23日(水)～３月25日(金)

1）工事内容

（１）撤去工事（Leppard Brothers, Garden Staff）

・現況樹木の移植　・現況石組の撤去

（２）造成工事（Leppard Brothers, Garden Staff）

・上部築山（盛土高　約0.5m）

（３）駆体工事（Leppard Brothers, Garden Staff）

・上部滝駆体（高さ約1.5m）・流れ駆体（長さ約4.0m　幅1.0m）・上部池駆体（面積約20㎡）・大滝駆体（総高さ約3.45m　滝幅約2.5m）・滝壺（総高さ約6.5m　滝壺幅約3.0m）・下部池駆体（面積約50㎡）

（４）ポンプ設置工事(Leppard Brothers)

（５）石組工事（配石指示 Muga, Leppard Brothers,

写真－13　落成式

写真－14　小滝及び礫山

写真－15　顕彰碑とロックガーデン

写真－16　顕彰プレート

写真-17　大滝完成全景

写真-18　階段及び大滝

写真-19　テープカット

Garden Staff）総トン数　約100トン・上部滝石組・流れ石組・上部池石組・大滝石組・下部池石組

（６）橋工事（配石指示 Muga, Leppard Brothers）

・上部橋（長さ2.1×幅1.1m）・下部橋（長さ1.8×幅×厚0.1m）

（７）植栽工事（配植指示 Muga, Garden Staff）

・List will be provided by Muga

（８）仕上げ工事（Garden Staff）

（写真－13・14・15・16・17・18・19参照）

５．おわりに

日本の風景をテーマに改修されたロックガーデン大滝は、英国の石組技法と日本の伝統的な石組技法が渾然一体と成り、英国のロックガーデンの歴史に今までに無い新たな日本の風景のロックガーデンとして出来上がりました。ウィズリーガーデンを訪れる世界中の多くの方々に、石組とその合間に可能な限り日本の植物を集めて植栽されたロックガーデンが鑑賞と語らいの場、安らぎと憩いの場と成ることを念じるとともに間違いなくそう成ることを確信しています。

英国王立園芸協会創立200周年を記念してこのような素晴らしいウィズリーガーデン内ロックガーデン大滝改修工事の設計と施工監理をさせていただいたことに関し、RHS会長リチャード・カルー・ポール卿、キュレーターのジムガーデナー氏、ロックガーデンセクション部長のトレバー氏（Trevor Whiltshire）に心から感謝とお礼を申し上げます。また、光栄なことに私の名前までRHS会長と共に、ロックガーデン全体の要に据えた正面中央の石に設計者として顕彰プレートに残していただきました。今回の工事は、これで完成では無く、5年、10年先を目標にして石組、植栽を行いました。これからもロックガーデンの成長を見守り素晴らしいロックガーデンに育てたいと思います。

最後に資金援助、植物の提供をしていただいた多くのRHS会員、施工業者のレパッドブラザーズのスタッフ、ウィズリーガーデンのスタッフ、また、資材探しから共に現場で作業した青木香奈さん、辻井博行さん、志水彩子さんの素晴らしい仲間に心から感謝いたします。

さらに、度重なる海外の作庭活動に対して環境計画学科前学科長の清水正之先生、環境デザイン学科学科長狩野忠正先生、諸先生には、常に暖かい励ましのお言葉をかけていただき今回も心おきなく作庭をさせていただきました。記して心から感謝の意を表します。

RHS会長のSir Richard Carew Pole　スピーチの全文

OPENING OF THE ROCK GARDEN WATERFLL

24 MARCH 2005

I am delighted to be able to welcome you to this ceremony, which serves to demonstrate the blending of Japanese ideas with the English way, much as has happened with the building of this waterfall and is a tribute to the co-operation between us.

The original Rock Garden was built in 1911 by the celebrated designer J.R.Pulham whose vision was “that every rock garden must have, above all things, a definiteness of plan and an aim to reproduce with fidelity some particular feature of Nature”, This was no small undertaking, with a tramway being laid to take the soil excavated away.

Although there have been amendments made since that time, this is the first rebuild of this part of the Rock Garden. In April 2003 the decision was taken by the Gardens Committee that the existing waterfall lacked drama and visual splendour, and Professor Masao Fukuhara of Osaka University of Arts, was invited to prepare some plans to improve this. The Professor was already well known for his work at Chelsea Flower Show, at Tatton Park and Kew.

Work began in February 2004, with the placement of huge rocks, some weighing more than 2 tonnes. The rock has come from Skelmersdale, Lancashire and was chosen as it closely resembles the existing 100 year old sandstone from East Sussex, although it is much harder than the original. The gravel has come from Comwall and complements the rock. Andy and Jay Leppand have done very good work in the construction of the waterfall, ably assisted by members of the Rock Department and the Estate Department.

You will hear from the Professor about the reasons behind his design. The original specification used Japanese plants throughout, but this has not proved possible, so substitutions have been made, in keeping with the spirit of the original design. The Larch (*Larix kaempferi*) adjacent to the waterfall is the oldest cultivated plant at Wisley for which records still exist and was presented to the Society on 3 August 1905, by J, Carter & Son, Seedsmen to the King, although it was not until 1912 that it was finally planted in its present location. At that time it was reputed to be 100 years old, and to have come originally from the Emperor of Japan. It must have witnessed a few changes in its time, though none as far-reaching as these we are celebrating today. Other choice plants include a number of *Acer, Rhododendron, Roscoea* and *Saxifraga*.

Professor Fukuhara, I should like to congratulate you on this spectacular achievement, and our thanks go to you and Miss, Shimizu for all that you have done to ensure that once again, the Rock Garden at Wisley is pre-eminent in the word.

Sir Richard Carew Pole